月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.50



待望の発売日&特典情報がついに公開!
英雄伝説 空の軌跡 FC Evolution

jdkバンドボーカル・コテカナの
コテ放題♥

ファルコムjdk バンド ドラマー・オカジの
人生半キャラずらし

ティオのファルコムラジオ めんどくさいです…でもがんばりますの舞台裏

ファルコムニュース

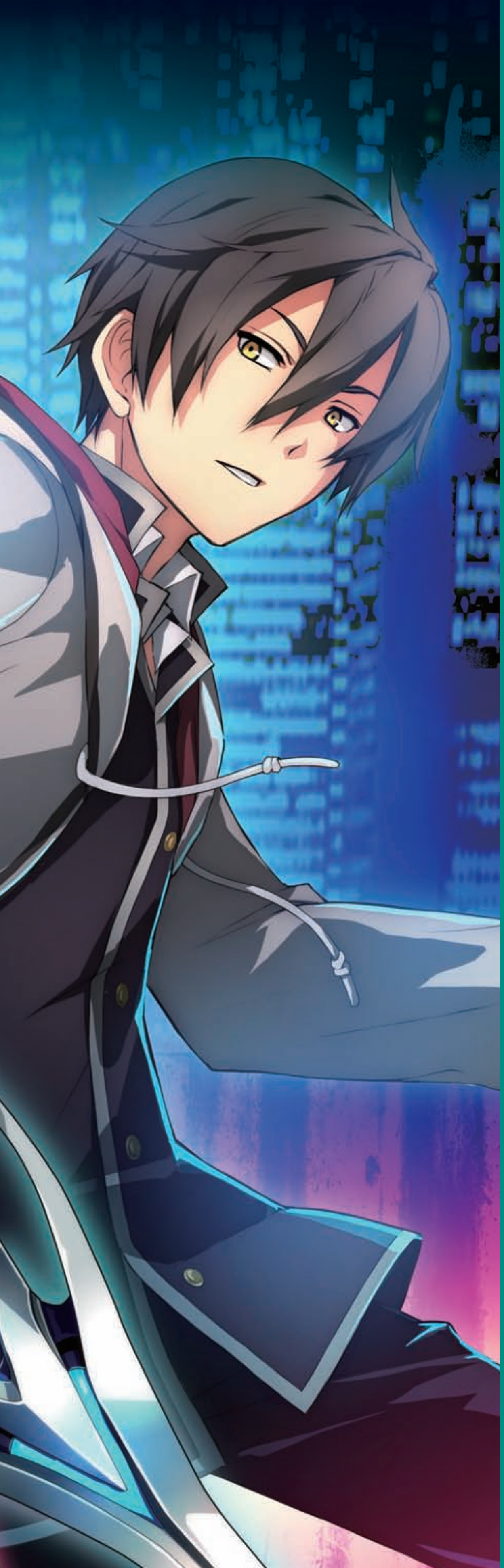
入れ替わったリィンとアリサの受難は続く!?
英雄伝説 閃の軌跡 ～メンタルクロスリンク～

『ZWEI II』からついにあのコンビが登場!
みんな集まれ! ファルコム学園

新たな戦闘システム&メインキャラクターの詳報が到着!
東京ザナドゥ

ファルコム随一のあのヒロインをイラストで語る!!
ファルコムヒロインが好き!

新章の幕開けは波乱含み!?
英雄伝説 閃の軌跡



FALCOM MAGAZINE

CONTENTS



東京ザナドゥ

新たなメインキャラクター
そして新たなゲームシステムの詳報が到着！

前号に引き続き『東京ザナドゥ』の続報が到着。今回はコウ（洸）、アスカ（明日香）に続く第3のメインキャラクターの情報や、新たな戦闘システムを紹介していくぞ。

●製品情報
●タイトル　：東京ザナドゥ
●発売日　：2015年発売予定
●ジャンル　：都市型神話アクションRPG
●対応機種　：PlayStation®Vita
●プレイ人数：1人
●販売価格　：未定
●CERO　：審査予定

『東京ザナドゥ』公式ホームページ
http://www.falcom.com/tokyo_xanadu/







「この“力”があれば――
きっと先輩たちのお役に
立てるはずです！」

郁島　空（イクシマ・ソラ）

15 歳（CV: ？？？）

《杜宮学園》空手部に所属する１年生で、コウの後輩にあたる　純粋で真面目な性格の少女。古流空手《郁島流》の師範を父に持ち、 幼い頃からその天才的な武術の才能を発揮していたが、「若いうちに見聞を広め、己が修行の場を見出すべし」という　父の教えを受け、高校進学を機に上京、 ふるさとの玖州（きゅうしゅう）を離れ、アパートでの下宿生活を始めた。所属する空手部で日々鍛錬に励んでいるが、その次元の異なる強さや裏の無い純真な性格が、かえって仲の良かった先輩部員との軋轢を生んでしまい……。

戦闘・アクションシステム

◆通常攻撃

◎ボタンで発動する基本的な攻撃。タイミングよく押していくことで連続攻撃となる。攻撃範囲やスピードは各キャラクターのソウルデヴァイスによって異なるので、状況に応じて使い分けよう。



両腕に手甲のようなソウルデヴァイスを装着。リーチは短いがコウやアスカに比べて攻撃速度が速い。また、連続攻撃時には《郁島流》の蹴り技も織り交ぜられている。





刃先が蛇腹に分かれる「アンカーギア」と呼ばれるソウルデヴァイスで攻撃。攻撃モーションは大きいが、自分を中心として広範囲の敵に円状に攻撃することができる。

片手剣の形状をしたソウルデヴァイスで攻撃。コウのアンカーギアと比べると攻撃範囲はやや狭いものの威力、スピードともに十分でスキも少ないため攻撃を組み立てやすい。



戦闘・アクションシステム

◆スキル

各プレイヤーキャラの共通アクションとして、「射撃」、「飛翔」、「剛撃」の３パターンに分かれた「スキル」というものが用意されているぞ。各スキルの使用にはSPゲージと呼ばれるゲージを消費するが、戦闘中に自動で回復するので気にせずどんどん使っていこう。

射撃スキル

◎ボタンで押すことで発動する遠距離攻撃用のスキル。通常攻撃よりも威力が弱いものの連射ができるため、相手と一定の距離を保ちながら攻撃することができる。



中空に出現させたエネルギー弾をグリード目掛けて射出するスキル。コウやソラと異なり、２発同時に撃つことができる



ソウルデヴァイスに溜めたエネルギーを前方目掛けて放出する射撃スキル。



前方に伸ばした切っ先の先端からエネルギーを放出する射撃スキル。

飛翔スキル

ジャンプ中に◎ボタンを押すことで発動するダッシュ攻撃スキル。空中にいる敵を攻撃できるほか、間合いを一気に詰めたり、逆に緊急回避としても使うことができる。




水平に伸ばしたアンカーギアの刃先を収納する反動を利用して前方へ一気にスライド移動を行うコウ専用の飛翔スキル。




前方に大きく跳躍し、風を切り裂く鋭い前蹴りを放つ、ソラの身体能力の高さを活かした飛翔スキル。




凍てつくオーラを纏い、前方のグリードを突き刺すような動作で一直線に飛び込んでいく飛翔スキル。スキル発動中はオーラに触れた相手にもダメージを与える。

剛撃スキル

◎ボタンを長押しすることで発動する一撃必殺技。弱い敵であれば一撃で倒せるほどの威力を誇るが、その反面、発動までのスキが大きいので使いどころの見極めが必要だ。また、ジャンプ中でも発動可能となっているぞ。




右拳に力を籠め、雷鳴のような轟きとともに正面のグリード目掛けて一撃を叩き込む。コウ、アスカよりも威力が高く、相手によっては大ダメージを与えることができる。



空中での剛撃スキル




伸ばした蛇腹状の刃先を回転させながら、周囲の敵をまとめて攻撃する。溜め時間がややあるものの、アスカ、ソラと比べて攻撃範囲が広いため、背後のグリードに対しても有効。

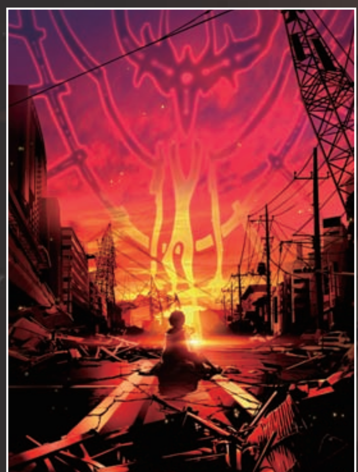



大きく振りかぶったソウルデヴァイスを前方の敵に目がけて一気に降りおろし大打撃を与える。ソウルデヴァイスの軌跡にあわせて中空にクリスタルが出現し、多段ヒットさせることができる。

今月のキーワード！

東京震災

10年前、東京を中心に発生した大震災。
――2005年3月15日、午前11時38分、雲ひとつ無かった空が前触れもなく緋色に染まった直後、M7.5クラスの地震が東京全域を襲った。断続的に余震が続く中、地震に伴う火災や津波、地中で発生した毒性ガスに加え、竜巻・落雷・寒波などの局地災害が各地で発生した。死者2万2千人、行方不明者7千人という数字は衝撃的で、東京のみならず日本全体に暗い影を落としたが、５年に渡る集中復興計画によって都市インフラは災害前よりも強化され、現在では"過去"の出来事となりつつある。



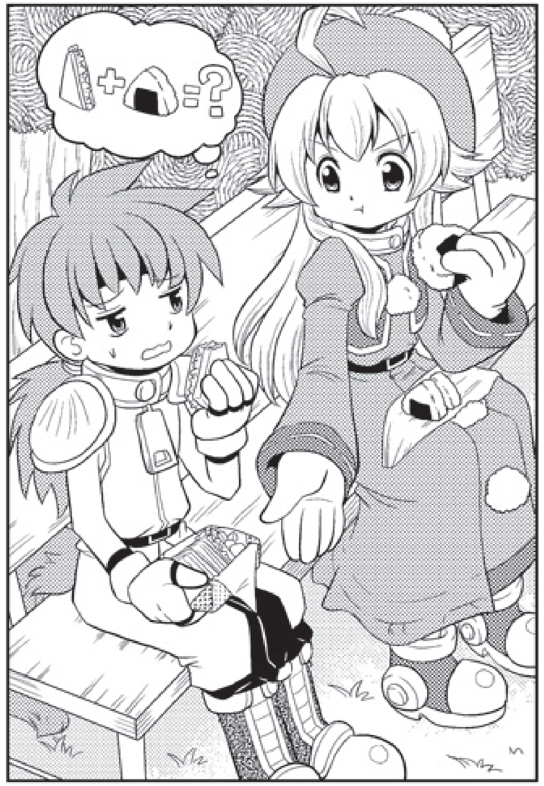
杜宮学園

コウやアスカが通う、歴史ある男女共学制の高等学校。杜宮市の中心地でもある杜宮駅からは徒歩圏内に位置しており、立地条件は悪くない。1年～2年まで、各学年の教室が入っている本校舎のほか、図書室や各種特別教室が集まっている第二校舎、体育会系の部室や食堂・屋内プールが併設されたクラブハウスなど、一通りの施設が揃っている。

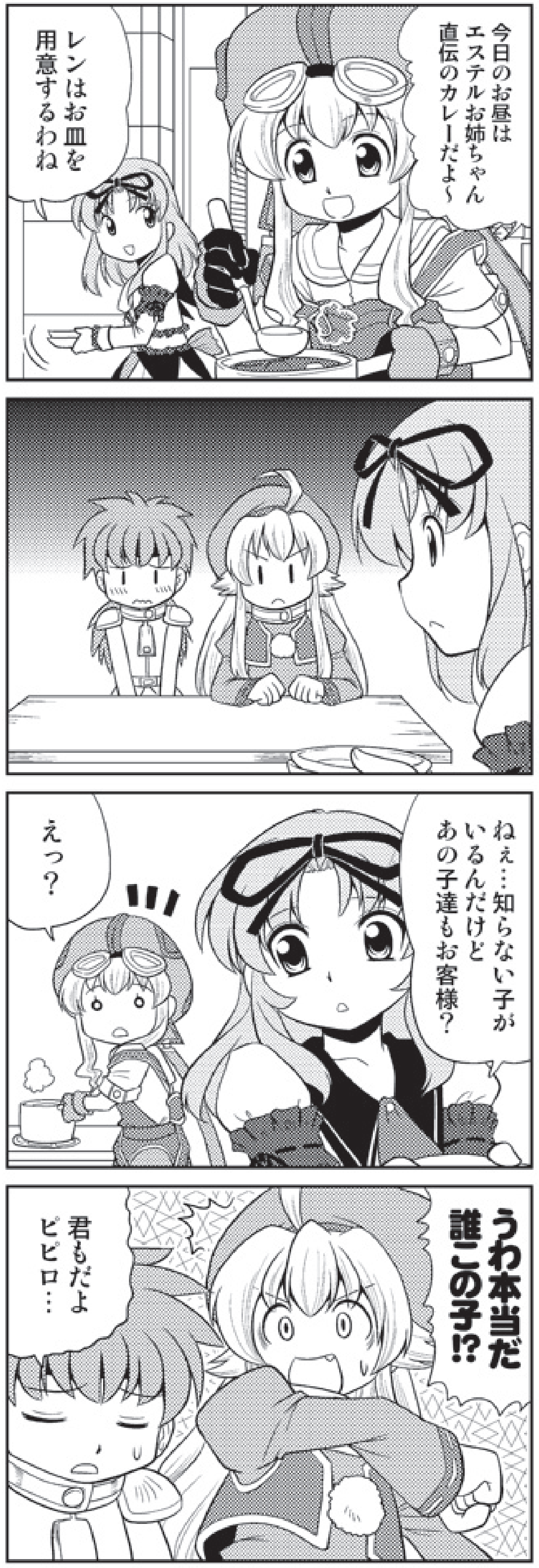


みんな集まれ! ファルコム学園

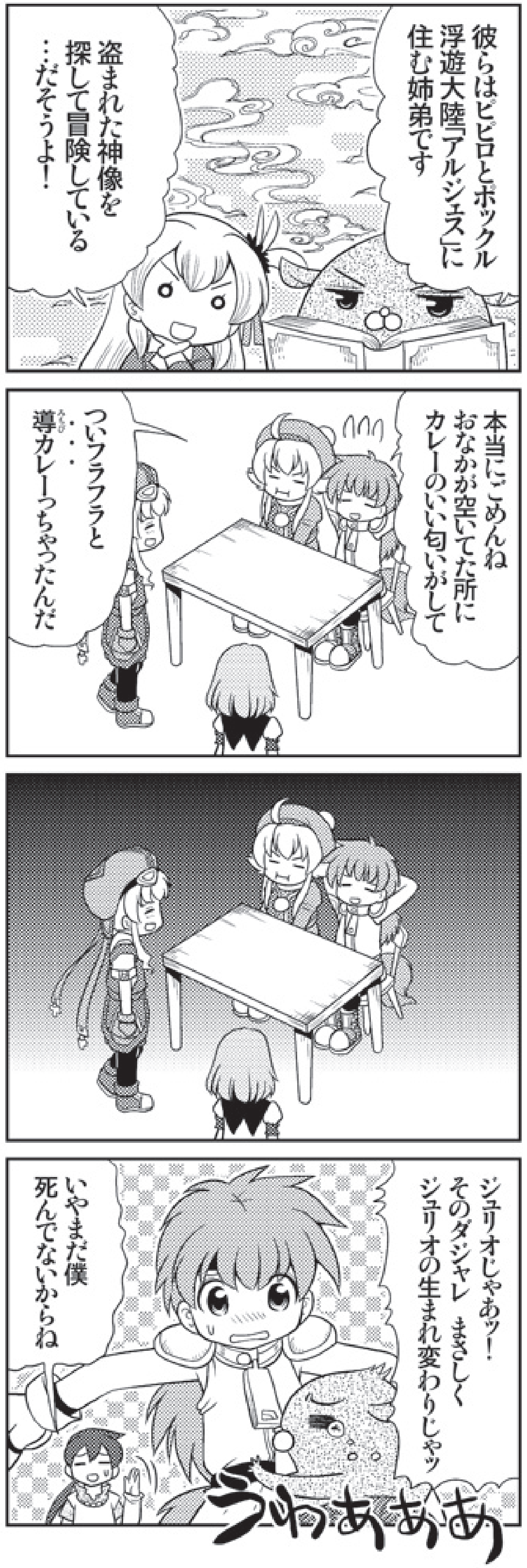
新久保だいすけ



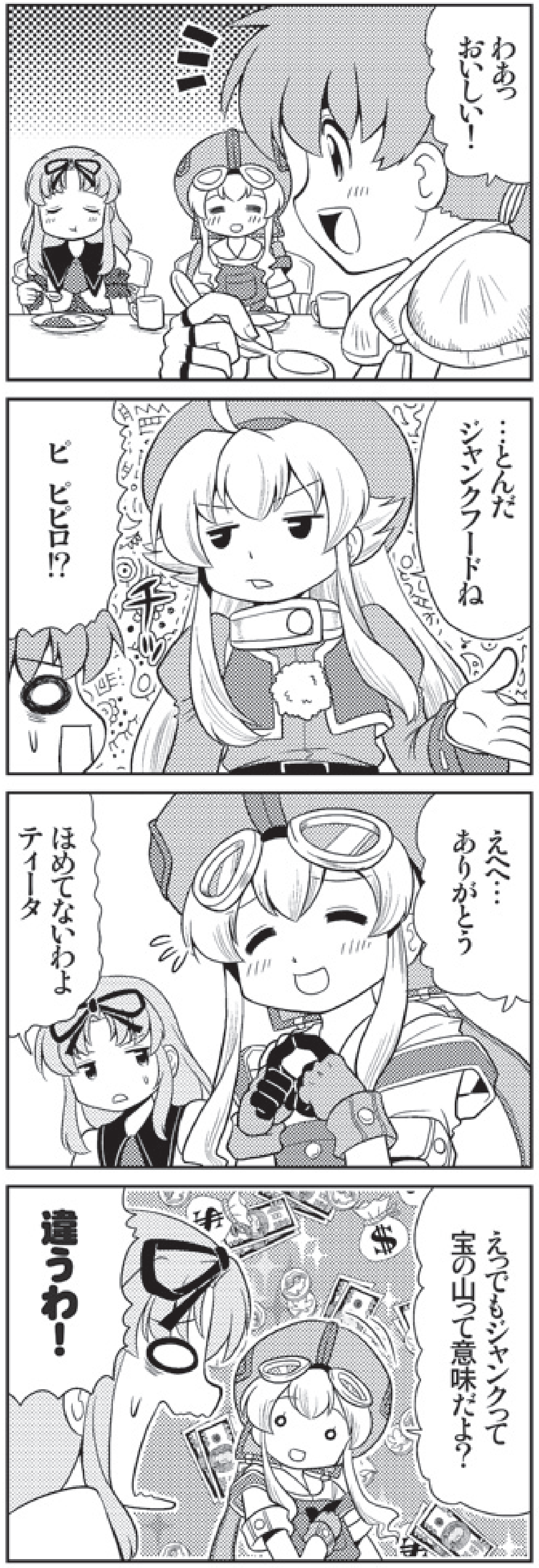
知らない子



転生



ジャンク



グルメ



傷心の理由



フード交換



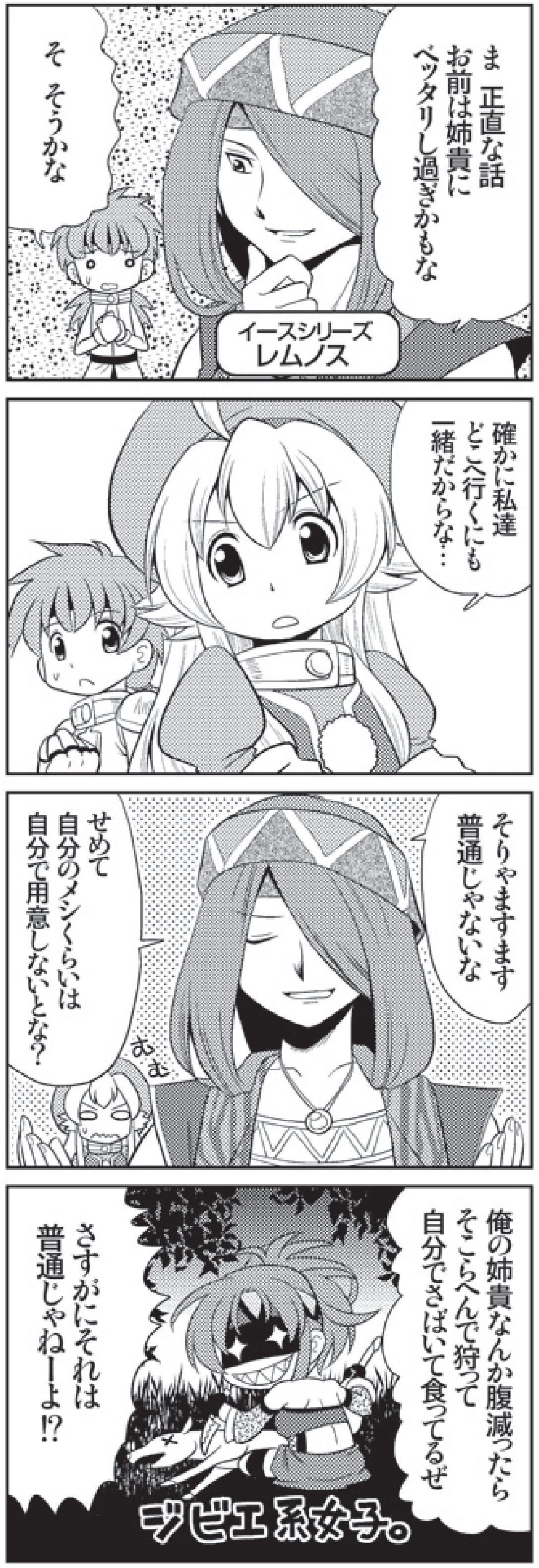
エナジードレイン



弟はつらいよ



普通の姉弟



姉への想い



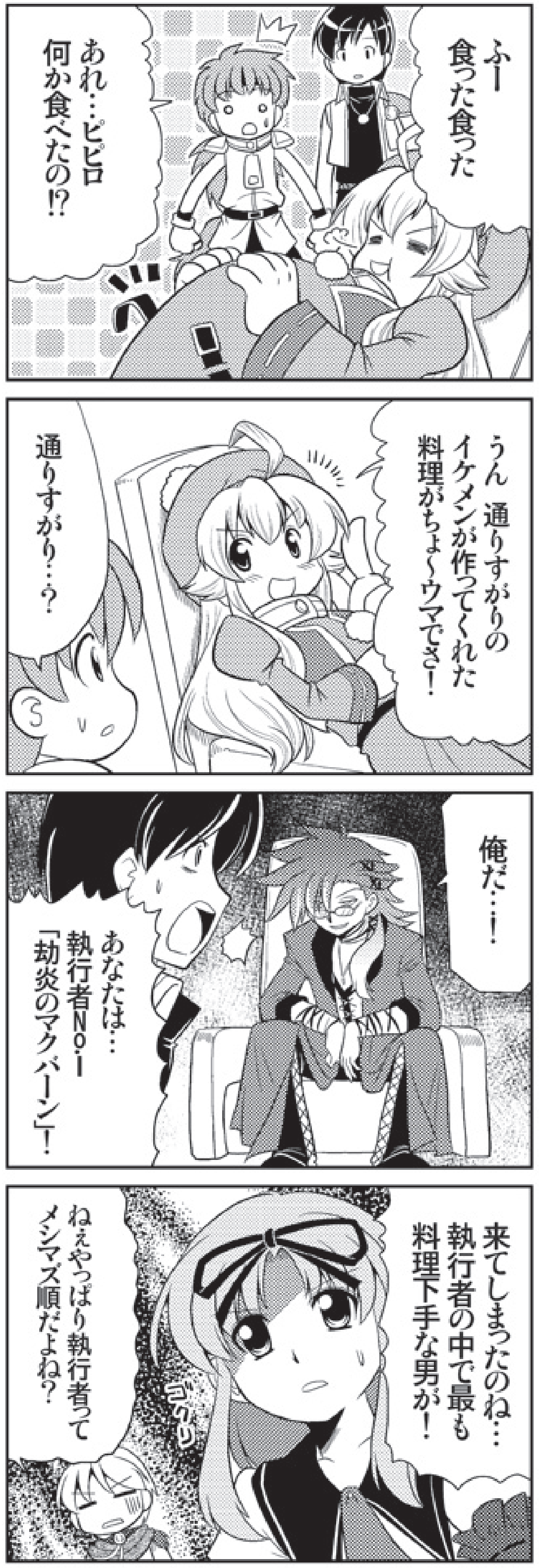
エリオットの本性



軽い話題



彼女を満足させし者



まざりもの



全部を超えるもの




THE LEGEND OF HEROES
閃の軌跡
センノキセキ
第6話
原作：日本ファルコム『英雄伝説 閃の軌跡』
脚本：恵村まお
漫画：さがら梨々
★次なる特別実習は貴族制が色濃く残る《翡翠の公都》バリアハート！
5月 トールズ士官学院 職員室——
トマス教官 書店に頼まれていた本をお持ちしました
おお〜これは『獅子戦役の謎』！ 確かに私が注文しておいたモノです
おふたりが書店の配達を？
はいっ
こちらはナイトハルト教官で……
メアリー教官
ありがとうございます
こちらは教頭先生のですね
ああ 助かる
まあ 生徒会のお手伝いですか
……うむ ご苦労


目指せ！ファルコム一番星!!
FB ファルコムBOOKS
まさかのアニメ化!? 第2期決定!? ますます留まるところを知らない日本ファルコムオールスターギャグ四コマの最新刊がついに発売！ みんな集まれ一緒にゴーファイ!!
この面白さ、英雄級!?
既刊もよろしく!!
ファルコム学園 01
新久保だいすけ
ファルコム学園 02
新久保だいすけ
みんな集まれ！
ファルコム学園③
著者：新久保だいすけ
本体：850円＋（税）
ISBN:978-4-89610-836-1
好評発売中!!
©Nihon Falcom Corp. All right reserved.
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイのHPはこちら
www.field-y.co.jp


マカロフ教官が見当たりませんね……
ん～…あと見てないのは屋上だな…
あ～その雑誌は俺のだな
これも生徒会の手伝いねぇ…
やべ 灰皿忘れたわ
キンコン
カンコーン……
リィン 水の入ったビーカーなんて持ってねーかな
ありませんよ…
さっき買っていたのは参考書か？
はい 中間テストが近いので これはフィーちゃん用の参考書です
え？フィーの？
ありがとう委員長 手伝ってくれて助かったよ
いえいえ 結構 本の量もありましたし… いつでも呼んでくださいね
クラスメイトの勉強まで見るなんてさすが首席だな……
テストか… 俺も頑張らないと
…やあ トワの手伝い頑張っているようじゃないか
!?


これは自転車…
いや
導力仕掛け？
リィン君だね
トワと
ジョルジュから
君のことは色々と
聞いているよ
先月の
《特別実習》でも
見事 活躍した
そうじゃないか
あ…
あなたは？
——アンゼリカ
アンゼリカ・
ログナーだ
よろしく頼むよ
えっ…！
四大名門の!?
《ログナー
公爵家》
……
は——…
ハハ さすがに
知ってたかい
まあ そこの
不肖の娘といった
ところかな

そちらの君も
Ⅶ組の子だね
あっ はい
エマ・ミルスティン
と申します
ふ〜〜ん…
まじ
まじ
!?
よろしくね
子猫ちゃん…★
おいおい…
その位に
しておけよ
ザッ
よう 後輩君
あっ…！
あなたは…！



クロウ先輩… もう賭け(ギャンブル)には 付き合いませんよ？
ハハ 別に 騙し取るつもりじゃ なかったんだがな
そうそう あれ どうやったか 判ったか？
足元の巾着
バレてる……
ま 50ミラは きっちり 返してやるから……
えーと…
悪い
10ミラしか 入ってねーわ
ゴン
ゴン
……
いいですよ もう……
ねー
50ミラくらい 大した額じゃ ないですし
お そうか？
こらこら いたいけな 後輩から たかるんじゃない
しっかしゼリカ こんな時間から 遠乗りかよ？
ああ 導力エンジンの 強化がやっと終わって くれたからね
帝都あたりまで ひとっ走り してくるかな
ひとっ走り？
ああ こいつは 『導力バイク』 つって……
《ルーレ工科大学》で 試作されていたものを ジョルジュが 完成させてな
パーツの資金は ゼリカが提供して 俺とトワも製作を 手伝ったんだぜ？
へぇ…
トワ会長や ジョルジュ先輩とも 親しいんですか？
ま 全員クラスは 違うが1年の時 からの腐れ縁って やつだな



クラスが違っても仲がいいなんて素敵な関係ですね
君たちはⅦ組なんて特殊なクラスにいるんだ
仲間とすぐにでも打ち解けそうだが…何か問題でもあるのかい？
あっ…えっと…
フフそれじゃあ
ドドドドドド
ブルルッ
す…凄い…！
……
クラスの仲間…か
……
リィンさん…
今日のこと気にして…
男爵家？
ああアリサたちには先日話したんだが…
帝国北部の山岳地《ユミル》——そこを治めている《シュバルツァー男爵家》が俺の実家になる
リィンさんも貴族だったのですね
いや
俺は"養子"だから貴族の血を引いているわけじゃないんだ


それでも 皆には
黙っていられなく
なったんだ
え……
……
そうだったのか
色々な事情が
あるようだな
はは
そんな大層な
事情じゃない
けど……
これからも
同じ時を過ごす
《Ⅶ組》の
メンバーとして
リィン…
ガタッ
マキアス……!
「少なくとも
高貴な血は
流れていない」
…か
フッ
よく言った
ものだ
す…すまない
あれはその
騙そうとしていた
わけじゃ……
言い訳は
結構だ
この際 君が貴族で
あるかどうかは関係ない
ただ 嘘をつく人間を
信用する事は
できない……
バタンッ
ただ
それだけの
ことだ
……
リィンさん
心配しないで
ください
え……
きっかけさえ
あれば……
リィンさんの思いを
素直に伝えれば
マキアスさんも
ちゃんと判って
くれますから
ああ……
心配かけて
しまって
すまない
委員長
チリン…
ん?
ぺろ
ぺろ
へー
綺麗な
猫だな
!


よーしよーし
街の誰かが飼ってるのかな?
リボン巻いてるし
ニャンニャン…★
ゴロ
ゴロ
はは気持ちいいか?
ひょいっ
オスかなメスかな?
それにしてもこいつ美人というか美猫っていうか……
ふしゃあっ
うあっ!
調子に乗りすぎた……
リィンさん!大丈夫ですか!?
すっすみません!!すぐに手当てをしますから!
へ?


委員長の猫だったのか?
あっいえその……
何度か見かけた事があって
ふぅん
それからまた慌しい学院生活を送り……
ふたたび実技テストの日を迎えた


実技テストお疲れ様！
中間テストが迫って各自慌しくなってると思うけど今月も特別実習を行うわ
【５月特別実習】
A班
リィン　エマ
マキアス　ユーシス　フィー
(実習地：公都バリアハート)
B班
アリサ　ラウラ
エリオット　ガイウス
(実習地：旧都セントアーク)
バリアハートは東部にあるクロイツェン州の州都……ユーシスの故郷だよね
セントアークは南部にあるサザーラント州の州都になるわ
――冗談じゃない！
サラ教官！いい加減にしてください！何か僕たちに恨みでもあるんですか!?
茶番だなこんな班分けは認めない 再検討してもらおうか
え～？あたし的にはこれがベストなんだけどな～
《翡翠の公都》……貴族主義に凝り固まった連中の巣窟っていう話じゃないですか！
確かにそう言えるかもねだからこそ君もA班に入れてるんじゃない
……っ！
うーんそんなに異議があるなら……
いいわ
な……!?


導力銃に……剣!?
な なんて凶暴そうな…
……あーぁ
ふたりがかりでもいいから力ずくで言うことを聞かせてみる…?
くっ……
ジャキッ
その冷静さを欠いた判断力…道理で散々な成績だったわけだ
ジャリ…
ちょ ちょっとふたりとも…!
……なるほどな
なに……?


先月のB班の特別実習に付けられた評価は"E"……普通の試験なら赤点レベルの落第点だ
ふたりが一緒だったことによって取った"E"…次の実習で挽回したいとは思わないのか
そ それは…
また そんな成績を取るつもりか?
フン だからわだかまりを捨てて仲良くしろとでも言いたいのか?
そこまでは言ってないさ 皆 立場も違えば考え方も違う
譲れない事だってあるだろう
だけど同じ班になった以上"友人"じゃない同じ時間と同じ目的を共有する"仲間"だ
と同時にアリサやガイウスたちB班に負けないための仲間じゃないか?
う……



実際 アリサさん ラウラさん エリオットさんは 前回と同じ班ですし……
ガイウスさんなら どなたとでも合わせて くれそうですね
今度のB班の チームワークは 心配なさそう
判った——もういい!!
今回の実習が 終わるまでは 少なくとも 休戦する……! いいな!?
フン そのくらいの 茶番に耐える 忍耐力なら 発揮してやろう
やれやれ……
よかった～
あらぁ… ちょっと残念☆
それじゃあ A班・B班共に 週末は頑張って きなさい♪
お土産 期待してる から～♥
これで少なくとも 一緒に行動できそう ですね!
ちょっとだけ 安心
どんな実習 だったんだ……!?
——特別実習一日目
ガタ
ゴトン……
バリアハート駅
ざわ
ざわ
ばっ
ユーシス様! お帰りなさい ませ!
ささ お荷物をどうぞ
ご学友の方々も 預からせて いただきます
す 凄い ですね……
今回は士官学院の 実習で戻ってきただけだ 過度な出迎えは不要と 連絡が行っているはずだが?
——ユーシスの 言うとおりに したまえ
そ そうは 言われましても
フン 駅員総出で わざわざ お出迎えとは……
いかにも VIPって 感じ



え……
カッ
カッ
ル
ルーファス様!?
ざわっ
カッ
あ 兄上……!?
親愛なる弟よ 3ヶ月ぶりくらいかな?
いささか早すぎる再会だが よく戻ってきたと言っておこう
はい 兄上も壮健そうで何よりです
ルーファス・アルバレア
ユーシスの兄にあたる
そして そちらが弟からの手紙にも書いてあった…
《Ⅶ組》の諸君というわけか
は! はい
まあ 恥ずかしがり屋の弟のことだ 私という兄がいることなど諸君には伝えていないだろうがね
ははは…
あ 兄上…!
ユーシス遊ばれてる
……
リィン君 テオ・シュバルツァー男爵からは その昔 鷹狩りの作法や心構えを教わったこともあるが……
今も壮健でいらっしゃるのか?
父をご存知なのですか…! はい 相変わらずの狩り道楽ですが
それは重畳… そしてそちらは


レーグニッツ知事のご子息だな？
……
ええ ご存知でしたか
最近 帝都の行事などで何度か顔を合わせていてね
これも何かの縁だろう 今後とも弟をよろしく頼むよ
そ それは…
その 前向きに検討させていただきます
フフ 結構
さあ 今回の実習の課題だ 父の代理として私の方で一通り取り揃えた
本来ならば今宵饗応の席を用意したかったのだが……あいにくこれから帝都に出向く用事が入ってね
帝都へ……飛行船で行かれるのですか？
父上の名代でね


フフ この兄がいないのがそれほどまでに寂しいのかな？
ご…ご冗談を
ハハ 無愛想な弟だがよろしくしてやってほしい
改めて―― ようこそ《翡翠の公都》バリアハートへ
歓迎させてもらうよ 士官学院《Ⅶ組》の諸君


ホテル・エスメラルダ
うわぁ……!
大きなホテルですね
高級そう…
……ルーファス・アルバレア 貴族派きっての貴公子という噂は耳にしたことがあったが……
何というか……すごく出来た方みたいですね
ああ 下級貴族である父への配慮もしてくれたし
それにユーシス なんだか弟っぽかった
……フン 妙なところを見られたな
しかしこのタイミングで兄上が不在になるとは…… 少々 誤算だったな
え……?
どういう事だ?
こちらの事だ すぐに部屋に荷物を置いて実習の課題を始めるとしよう
カサ
貴族の方に職人の方…… 様々な依頼が来ていますね
あぁ
魔獣退治の方はちょっとメンドくさそう
このオーロックス砦に報告しろというのは何なんだ?
東のオーロックス峡谷の先に領邦軍が利用する中世の砦がある 魔獣退治はそこからの手配ということだろう


FB ファルコムBOOKS
これを読むまで
しぬでないぞ!!
『月刊 Falcom magazine』に掲載された読み切りコミック 13 本を完全収録したコミックアンソロジーがついに登場！ 新旧ファンも納得のラインナップで贈る、ファルコム愛溢れる1冊を是非ご堪能あれ！
カバーは『英雄伝説空の軌跡』コミカライズを担当した啄木鳥しんき先生の豪華描き下ろし♪
好評発売中!!
ふぁるこむコミックざんまい
収録テーマ作品
『イース』
『ブランディッシュ』
『ヴァンテージマスター』
『ぐるみん』
『ザナドゥネクスト』
『軌跡シリーズ』
価格：本体920円＋税
ISBN 978-4-89610-818-7
©Nihon Falcom Corp. All right reserved.
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイのHPはこちら
www.field-y.co.jp


よし それじゃあA班の 実習活動を 開始しよう
B班で頑張っている アリサたちに 負けないためにも…… 各自 全力を尽くそう！
ん
はいっ
……ああ
いいだろう！
波乱のA班－実習開始！

人生半キャラずらし



jdkバンドのドラマー・オカジが
ファルコムと音楽と人生について熱く語ります！

「jdkBANDライブを数日後に控えて…」

この原稿が掲載される頃には、3月28日に日本橋三井ホールで行われるｊｄｋバンドライブも無事に終了し、僕は満身創痍の中、真っ白に燃え尽きている事だろう……多分ｗ

実際、この原稿は3月24日現在、書いている真っ最中である。実際の所、明日から3日間ぶっ続けでのリハーサルが始まるわけで、色々な仕込みで手一杯の状況というのが正直な所だ。今回のライブでは初のトリプルギター編成にも挑戦することになるし、多忙を極めるメンバー達のスケジュール状況に応じてリハーサルを進めなければならない。

そんなこんなで僕自身も考えなければならないことで頭の中が一杯なので、こうやって文章を書き進めてはいるものの、実は何を書こうかまったくもって決まっていないのである。キッパリ……と、こんな事を書いてしまうと、鬼編になぶり殺されてしまいそうではあるが、事実なのだから仕方ない。……だが、何か書かねば。何かを書かねば原稿料が貰えない。（オイ）

どちらにせよ、僕の頭の中はライブの事で一杯なわけだし、せっかくなので、今回のライブについて、色々な思いや意気込みなど、今現在の僕が思っている事を書き連ねる事にしよう、そうしよう。皆さんがこのコラムを読む時には事後になってしまっているけど、そこんところ、ご了承頂ければ幸いである。

今回のライブは、少し意表をついてTO MAKE THE END OF BATTLEで幕を開けることになる。これはなぜかというとファルコムの音楽の代表曲と言えば、やはりこの楽曲だからだ。当然、毎度のことライブでも演奏しているし、実際この曲でライブがスタートすることで今回のテーマである「ｊｄｋバンドの集大成」というものを音でお伝えしたいと思っているのだ。演奏しなれている楽曲というのは、演奏している最中に色々な気持ちを込めやすいものでもある。そしてそんな楽曲をどんな思いで演奏する気でいるのかと言えば、やはりそれは僕の生き様のようなものかもしれない。

実際、この楽曲を僕が初めて耳にした時、まさか大人になった自分が演奏することになるだなんて思ってもいなかったわけで、本当にＹｓの音楽と出会えたからこそ、今の自分はミュージシャンという道を歩むことになったのだともいえる。振り向きリリアを見て感動していた幼い自分と今の自分が邂逅する瞬間という不可思議な人生のドラマを、改めて皆様に感じて頂ければと思っている次第なのだ。

だからこそ、今回は「あえて」演奏しなれている楽曲を中心にライブをお届けしてみる事にした。いつものライブではできる限り、レアな（女神様のことではなくて）楽曲をセットリストに盛り込み、奇をてらうことでファンイズムをくすぐるような手法を取っていたわけだが、こと、「演奏する」という部分にフォーカスするのであれば、その手法にはリスクもあるのだ。当然、珍しい楽曲というものは、僕も他のメンバーも初めて演奏することになるのだから、楽曲の世界を深く追求するには、限られたリハーサルの中では時間が足りず、残念ながら付け焼き刃な仕上がりになってしまう事も少なくはない。もっと最良の形で、最良の演奏で、ファンの皆様にお届けしたい……。もっと楽曲そのものが持つ「世界観」をちゃんとした形で表現したい……。そんな思いが僕の中に少なからずあったというのも事実なのである。

本当にその楽曲が持っている「世界観」をもっと深く追求する形でお届けするために、今回の手法は最良なのだと思う。なにしろ、ファルコム音楽のクラシックとも言えるような名曲で、且つ、我々ｊｄｋバンドのメンバーが演奏し慣れている楽曲ばかりをチョイスする事で、より深みのある演奏をすることができるのではないだろうか。

僕自身、すべての楽曲に対して、ユーザーとしての思い出や感情を込めて、そしてなによりプレイしている画面を思い浮かべながら全身全霊で演奏するつもりだ。この軌跡10周年という記念すべき節目だからこその「あえて」のセットリスト。この思いも含めて、皆様に伝わる事を切に祈りたい。

そんな思いを込めて、ｊｄｋバンドの集大成、お楽しみ頂ければ幸いである。

SEE YOU AGAIN!



岡島俊治（Okaji）

1979年6月9日生まれ
ドラマー/パーカッショニスト/作曲、編曲家/プロデューサー
洗足学園短期大学器楽科打楽器専攻卒業。
2000年、ロックバンド『HeadPhonesPresident』のドラマーとしてデビュー。
2005年、同バンド脱退後はフリーミュージシャンとしての活動を開始。様々なアーティストのサポート、レコーディング、プロデュース等を行う。
2008年より『ファルコムjdkバンド』に参加。
主な共演歴：jdk BAND、Sixh.Opera、HeavensDust、野宮真貴、植村花菜、CORE OF SOUL、DENIAL、安藤禎央、清田愛未、中村幸代、一純悠人、momokomotion、越尾さくら…etc

≪Falcom jdkバンドライブ特設サイトURL≫

http://www.falcom.co.jp/jdk/fa_live.html

コテ放題

コテカナことjdkBANDボーカル小寺可南子がゲームと共に、好き放題な日々のことを描くコラム!!

▶PROFILE



日本ファルコムのゲームソングを奏でる専属バンド"jdkBAND"のボーカル。webラジオ「ファルコムラジオ"めんどくさいです…でもがんばります"」では声優水橋かおりさんと共にパーソナリティをつとめる。その他CMソング、ジングルなど活動は多岐に渡る。
twitter @cana_ko_tera

第26回　コテカナ、再びノルドで迷子中

まいどどうもみなさま！　すっかり春の陽気ですがいかがお過ごしでしょうか？　私はただいまノルド高原を絶賛さまよい中です！　ってなんだかデジャブ感あるのは気のせい……ではないですね！　どこに向かって走ってるんだかつい忘れがちになる広い広〜いノルド高原では、敵キャラも心なしかゆったりほのぼのして見えちゃったりして。他のフィールドでは宝箱の真ん前にじんどってたりするのにちょっと距離感あるとこなんかも「取ってっていーよー」みたいに見えてホッコリします(笑)。トヴァルさんの「よさそうな宝箱だな」のセリフをはげみに、この調子で風の導くままに走っていきますよ〜！（↑地図をよめない人間）

実は今回の原稿はLIVE後に大急ぎで書きました











2011年10月から好評配信中のWEBラジオ『ティオのファルコムラジオめんどくさいです…でもがんばります』の舞台裏をこっそりお届け♪

ティオのファルコムラジオめんどくさいです…でもがんばります
■**配信日**　毎週金曜日、公式HP、ランティスラジオ、ニコニコ動画にて更新。
■**メインパーソナリティ**　水橋かおり（『碧の軌跡』ティオ・プラトー役）　小寺可南子（『ファルコムjdkバンド』ボーカル）
■**公式ホームページ**　http://www.falcom-radio.com/

第173回-第175回　中田譲治（『閃の軌跡』ギリアス・オズボーン役）

173-175回は『閃の軌跡Ⅱ』でも抜群の存在感を示した、シリーズ屈指の大人物オズボーン宰相を長年演じ続けてきた中田譲治さんが初登場。その渋くて重厚な声とは裏腹に、軽妙なトークを繰り広げる中田さんに終始スタジオは盛り上がりっぱなしの収録となった。また、長年演じ続けてきたオズボーンに対する思いや、ライバル役のオリビエに対する印象など、実直な中田さんらしいシーンも随所に見られた。またしれん課のコーナーではミュージックライブラリのほか、支援課見習いふたりによるイラストコーナーが久々に行われた。

▶第173回-第175回の舞台裏◀

収録の際は毎回きちんと予習復習をこなしてから臨む中田さん。今回のラジオでも、その実直さは存分に発揮され、ファルコムラジオ特有（？）のノリに対しても抜群の受け答えを披露。シリアスからコメディまで完璧にこなす、まさにオズボーンさながらの手腕を見せた。

第176回　なし（ミュージックライブラリスペシャル）

第176回は毎回大好評の読者参加型でファルコム音楽を振り返っていく人気コーナー・ミュージックライブラリスペシャル。『イースV 失われた砂の都ケフィン』の『In The Cradle』を皮切りに、『解き放たれた至宝』（『空の軌跡SC』）、『邪魔をするな！』（『朱紅い雫』）が前半戦として登場。後半戦も『ザナドゥ』、『イース・オリジン』、『イース』から1曲ずつ紹介されていき、今回も時代や作品を問わず、多くの名曲がガチくん、しおりんコンビによって紹介されていった。

▶第176回の舞台裏◀

CDはもちろんのこと、iTunesをはじめ、さまざまなところでダウンロード販売もされているファルコム音楽。4月1日には再び盛り上がりを見せる『空の軌跡』から、オリビエのキャラクターソングも発売開始となるぞ。本コーナーでは紹介されなかったが必聴の1枚であること間違いなしだ。







今月のコテガキ

毎週更新とともに発表される、小寺さん直筆の「コテガキ」を少しだけご紹介！

▶ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！

『閃の軌跡Ⅱ』私服DLC期間限定 50%OFFキャンペーン

リィンの「あの衣装」ついに解禁!?

『英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ』では、３月26日から４月８日までの期間限定で私服衣装のDLCが半額で購入できるキャンペーンを実施中！　また、ゲーム発売当時に無料配布された「リィンの"人には言えない衣装"」をユーザーの皆様からのリクエストにお応えして、26日よりPSストアで配信が決定、こちらも合わせてゲットしよう！　詳細は公式サイトまで→http://www.falcom.co.jp/sen2/





英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ 公式ビジュアルコレクション

Ⅶ組の軌跡がこの１冊に!!

『英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ』、ゲーム内外で使用された美麗なイラストをより深く堪能できるビジュアルコレクションがついに発売！　各キャラクターのカットインやDLC用衣装の他、販促用グッズに使用された希少なビジュアル、設定画なども一挙収録。また、ゲーム限定版パッケージに同梱されたドラマCDのシナリオも全文掲載されて読み応えもたっぷりの１冊となっている。1,800円（税込）。



Amazon デジタルミュージックストア スプリングセール

欲しかったあのCDがお手軽価格で!

４月１日から９日までの９日間、音楽ダウンロードサイト・Amazonデジタルミュージックストアでは大幅値下げ企画を実施。対象商品の中には懐かしの名アルバムから最新作まで、ファルコムミュージックも多数取り揃えている。「ブランディッシュ ピアノコレクション」や「ふぁるこむボスざんまい」などラインナップは全25タイトル、この機会にお気に入りを揃えてみるのはいかが？　セール価格500円（税込）。





THE LEGEND OF HEROES 空の軌跡FC Evolution

ソラノキセキFC エヴォリューション

●製品情報

■タイトル ：英雄伝説 空の軌跡 FC Evolution
■発売日 ：2015年6月11日発売予定
■ジャンル ：ストーリー RPG
■対応機種 ：PlayStationⓇVita
■プレイ人数 ：1人
■小売価格(税別)：通常版(PS Vita)…5,800円
：ダウンロード版…4,800円
：限定版…8,800円
：キャラアニ限定BOX…15,556円
■発売 ：角川ゲームス
■企画・監修 ：キャラアニ、日本ファルコム
■CEROレーティング：B
■コピーライト：

6月11日！ついに発売日が決定！＆体験版好評配信中!!

『軌跡』シリーズ10周年にEvolution化が発表され、情報をお届けしてきた『英雄伝説 空の軌跡 FC Evolution』。その発売日がついに、6月11日に決定したぞ！　また、3月26日から序章をまるごと楽しむことができる体験版がPlayStation®Storeにて好評配信中だ！　エステル＆ヨシュアの旅立ちまでを描く大ボリュームの体験版でその進化を充分に体感することができるので、今すぐチェックしてみよう！









最新情報は公式ホームページをチェック! http://www.sora-evo-fc.com/

英雄伝説 閃の軌跡 ～メンタルクロスリンク～

著：草薙アキ　イラスト：YahaKo



第2話　訪れた非日常

新型ARCUSの誤作動によって、戦術リンクを組んでいた互いの精神が入れ替わってしまったリィンたちは、なんとか元に戻そうと、再度戦術リンクを組み、戦闘を行おうとしていた。

こうなってしまった原因が、精度を向上させた戦術リンクのせいだと言うのであれば、同じ原理を用いることで、再び誤作動を起こそうと考えたのである。

が。

「……駄目だ。思うように剣が振るえぬ……」

がんっ、と地面に大剣の切っ先を突き刺したのは、無駄に凛々しい顔つきになったフィーだった。

言わずもがな、中身はラウラである。

「そうだね。たぶん身体と武器が合ってないんだと思う」

当然、寝惚け眼で両手の双銃剣を見つめるラウラには、代わりにフィーの精神が宿っていた。

「確かに。いつもより剣が重く感じるな。重心も安定しない」

彼女らに同意するのは、刀を握り、男っぽい口調になったアリサと、

「私も。弓を引く分には問題ないけれど、この身体にはちょっと小さいかもしれないわね。まあ私専用に調整してあるから、合わないのは当然なのだけれど……」

若干内股気味になり、どこかなよっとした雰囲気で女性の言葉を使うリィンだった。

もちろん入れ替わっているので、アリサにはリィンの、リィンにはアリサの精神がそれぞれ定着している。

「武器もそうですが、身体の方も修練を始めた時から、最も効率よく己が武器を扱えるよう昇華していきます。である以上、合わないのは当然ですわ」

そしてこの状況でも涼しい顔なのは、アリサのメイドであるシャロンだ。

とくに動じた素振りも見せず、自分のことを「お坊ちゃま」と呼ぶなど、どこか楽しんでいるようにも見えるシャロンの様子に、アリサはジト目をぶつけながら問う。

「じゃあどうしろって言うのよ？　お互いの武器を交換しろとでも？」

「いえ、確かにその身体に合った武器にした方がよいとは思いますが、それは〝内側〟と〝外側〟――つまり〝心身〟がきちんと揃っている状態での話です。現状では、たとえ武器を交換したとしても、高次元での連携は難しいと思いますわ」

シャロンの言葉を聞き、一同の表情が曇る。
事はそう単純なものではない、と再度思い知らされたからだ。
「ならば現状で合う大きさの武器を、改めて見繕うというのはどうだろうか？　多少のずれは感じると思うが、それでも自身の扱う武器と同種のものだ。慣れるまでそう時間もかかるまい」
「……ん。ナイスアイディア、ラウラ」
ぶい、とVサインを作るフィーに、アリサは慌てて口を挟む。
「ちょ、ちょっと待って!?　確かにうちの製品で起こった事故だし、そういうことなら、ラインフォルトが責任を持って製作してくれるとは思うけれど……」
実家と距離を置いているアリサは、言いづらそうに横目でシャロンを見やる。
言わずとして彼女の気持ちを理解しているシャロンは、にこりと咲き誇る花のように微笑み、「もちろんですわ」と了承の旨を告げた。
それに安堵の表情を浮かべたアリサだったが、自分の言いたいことはそこではないと、捲し立てるように口を開いた。
「その間ずっとこの身体でいろって言うの!?　二十四時間ずっと!?」
「俺はとくに気にしないが……」
「私が気にするのよ！　というか、〝とくに気にしない〟ってどういうことよ!?　私の身体には何も感じないと言いたいわけ!?」

「い、いや、そういうことじゃなくてだな……」
「じゃあどうなの!?　リィンは私のことをどう思って——って、何言わせるのよ!?　馬鹿っ！」
真っ赤な顔で後ろを向いてしまったアリサに、リィンはどうしていいか分からず、たじたじになっていた。
「……アリサ、意外と大胆」
「ふふ、恥じらいに顔を染めるお坊ちゃまも可愛いですわ」
「シャロン殿、そなたやはり楽しんでいるのでは……？」
リィンとアリサのやり取りを遠巻きに、そんな会話をする三人だった。

今回の依頼はラインフォルトの威信もかかっているため、ひとまず学院長以上への報告はしないでもらいたいとシャロンから念押しされたリィンたちは、とりあえず生徒会長であるトワ・ハーシェルに状況を報告し、事態の打開へ助力を乞うことにした。
なお、シャロンは一度ラインフォルト本社のある〝黒銀の鋼都〟——ルーレに戻り、何か解決策がないかを探してみるということだった。
「——なるほど。にわかには信じがたいけど、状況は把握出来たと思う。それで、えっと……リィン君？」
と、未だに確信を持てない様子で、アリサ（リィン）に問いかけるのは、ほんわかと柔和だ

が、どう見ても年下にしか見えない容貌の、小柄な美少女だった。

トワ・ハーシェル。

幼い外見と口調から、よく年下だと間違われがちだが、これでもれっきとした18歳であり、リィンたちの先輩にあたる。

頑張り屋で面倒見の良い優しい性格の上、常人離れした事務処理能力を有し、常に仕事に追われている印象を受けるが、彼女の場合、任された仕事はきちんと全部こなしている。

以上のことから、彼女自身は平民の出でありつつも、身分を問わず支持を受け、生徒会長職に就任した。

彼女の優秀さは、学院の枠を越えて様々な方面にも行き届いており、先日クロスベルで行われた〝西ゼムリア通商会議〟でも、随行団の一員に抜擢されるほどであった。

そんな彼女に問いかけられたリィンは、申し訳なさと情けなさが入り交じったような表情で「はい……」と答えた。

「本当にリィン君なんだ……。で、こっちが……アリサちゃん？」

「ええ、そうです……」

がっくりと肩を落とし、リィン同様アリサも答える。

「う、うーん……。えっと……ラウラちゃんとフィーちゃん？」

「うむ」

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

「……ん」

「え、えっと……」

あからさまに動揺するトワに、リィンたちもいたたまれない気持ちだった。

「なんかすみません……」

「えっ!? あ、ううん！ 大丈夫！ ＡＲＣＵＳの誤作動だもん。仕方ないよ。それより皆の方こそ大丈夫？」

「はい。俺たちは大丈夫です。精神は入れ替わりましたけど、それによって身体に不調が起きるというのは、今のところないみたいなので」

「そっかぁ……。よかったぁ……」

トワがほっと胸を撫で下ろし、「でも何かあったらすぐに言わなくちゃ駄目だよ？」と少々語尾を強くして言った。

彼女は自分がどんなに忙しい状況でも、周囲への気遣いを絶対に忘れない。

そういう優しさの持ち主だからこそ、身分を越え、多くの人から支持を集めることが出来るのだろう。

そう感じたリィンは、「はい」と返事をした後に、改めて彼女にお礼を言う。

「ありがとうございます。会長と話していたら、なんだか少し気が楽になりました」

「えへへ、どういたしまして。私も皆が早く元に戻れるように協力するから、出来ることがあ



ったら遠慮なく言ってねっ！」

両手を胸元でぐっと握るトワの姿に、リィンたちはなんとも言えぬ心強さを覚えるのだった。

「というわけで、リィン君たちを元に戻すため、皆から案を得たいと思いますっ！」

教卓の前で凛然と言い放つのは、件のトワである。

普段のほんわかとした雰囲気とは違い、今は生徒会長として、皆のリーダーであるトワ・ハーシェルの姿を見せていた。

隣にはクラス委員長であるエマの姿もあり、一年Ⅶ組の教室内には、帝都ヘイムダルへと向かったクロウとミリアム以外の、《Ⅶ組》のメンバーがほとんど揃って着座していた。

こういう事態になってしまっては仕方がない。

リィンたちはトワの協力を得て、彼女のARCUSで、皆に連絡を取ってもらったのだ。

各々の事情を知っている中で、非常招集をかけさせてもらったこと、そしてその役をトワに任せてしまったことに、心から申し訳なく思うリィンたちであったが、トワを含めたメンバー全員から、「気にしなくていい」「こういう時に呼ばなくてどうするのか」と喝を入れられ、感慨深い気持ちになっていた。

進行役をトワが、書記役をエマが務める中、入れ替わってしまったリィンたちの精神を、なんとか元に戻すための意見交換が始まる。

リィンたちの席順は、本人だと分かりやすいよう、精神の方に重きを置いて変更している。
真っ先に手を上げたのは、マキアスだった。
「はい、マキアス君」
「はい。まずは現状をしっかりと確認した方がいいと思います。何故こうなってしまったのか、原因は本当にARCUSの誤作動だけなのかを今一度――」
「阿呆が。そんなことを呑気に考えている時間があるとでも思っているのか？」
途中で口を挟んだのは、腕を組み、不遜な態度でマキアスを見やるユーシスだ。
「なっ⁉ それはどういう意味だ⁉」
「現状をよく考えてもみろ。こいつらの状態は非常に不安定だ。不確定要素も多い。脅すわけではないが、いつ何が起こってもおかしくはないんだぞ？」
「そ、それはそうだが……」
「ならばもっと効率的に物事を考えるべきだ。早々にこいつらを元に戻す方法をな」
「だ、だからこそ、そのために現状の確認をする必要が――」
「ちょ、ちょっと二人とも！ 今は言い争っている場合じゃないでしょ？」
エリオットにそう諭され、二人はばつが悪そうに口を噤んだ。
「うん、君たちの意見は分かったよ。原因については、シャロンさんの方がラインフォルトに直接出向いているから、それで何か分かればと思うけど、現状では戦術リンクの感応が高過ぎたのが原因だと見ているみたい」
「だからもう一度その感応現象を起こそうとしたんでしたよね？」
エマに問われ、トワは「うん、そうみたい」と頷いた。
「その点については、リィン君たちの方が詳しいと思うけど、どうかな？」
「ええ、トワ会長の言うとおりで間違いはないです。俺たちはもう一度同じことを繰り返せば、元に戻れるんじゃないかと考えました。でも身体と武器が合わなくて、結果的に失敗しました」
リィンの言葉に、ラウラも続く。
「一応それぞれの身体に合う武器の発注も考えたのだが、色々と問題も浮上してな。現状ではやはり手詰まりだと言うほかはないだろう」
そこに食いついたのは、やはりアリサだった。
「し、仕方ないじゃない！ あなたたちはまだ女の子同士だからいいでしょうけど、私なんてリィンとなのよ⁉」
「いや、そんなに嫌がらなくても……」
「ま、まあ仕方ないよ。アリサちゃんだって女の子だし。で、でも別にリィン君のことが嫌だからとか、そういうことじゃないんでしょ？ そうだよね？ アリサちゃん」
「えっ⁉ そ、それはまあそうですけど……」
どこか言いづらそうに顔を伏せるアリサの顔は、ほんのりと赤みを帯びていた。

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

「……やはりどうにも慣れないな」

「あはは、まあ僕も未だに信じられないからね」

恥じらうアリサ（外見はリィン）の姿を前に、頭痛を覚えるマキアスと、苦笑いのエリオットだった。

「ところでガイウス、お前はどう思う？　先ほどから意見を述べていないようだが？」

ユーシスにそう問われたガイウスは、「そうだな」と考える素振りを見せた後、一度頷いてから口を開いた。

「オレはこれも風と女神の導きだと思っている」

「ほう、その根拠はなんだ？」

「ああ、オレたちはこのクラスに来てから、今までに様々なことを経験してきた。困難にぶつかったことも多々あったと思う。だがオレたちはそれを乗り越え、前に進んできた。学んだことも多い。だからこれも何かしらの試練なのではないかと思えるんだ。実際に精神が入れ替わったリィンたちにしろ、それを支えるオレたちにしろ、それは同じだとオレは考えている」

「なるほど。お前らしい意見だな」

ふっと口元を緩めるユーシスに、ガイウスも微笑みを浮かべ、こう言い切った。

「心配するな。たとえ時間がかかったとしても、きっとオレたちなら乗り越えられるはずだ」

「ガイウス……」

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

彼のその一言に、リィンを始めとした全員が、胸に熱いものを感じていた。

が。

「あ、あの、なるべくなら時間をかけないようにお願いしたいのだけれど……」

アリサだけは一人丸く収まりそうな雰囲気に異を唱えていたのだった。

すでに静かな寝息を立てているマイペースなフィーを尻目に、再び意見交換が行われる。

「他に意見がある人はいるかな？」

トワがそう促せば、「じゃあ僕も……」とエリオットが小さく手を上げた。

「はい、エリオット君」

「えっと、例えばだけど、ＡＲＣＵＳに何かしらの物理的な刺激を与えてみるのはどうかなって。昔、父さんがそうやって導力ラジオを直したことがあったから」

「ふむ、悪くはない考えだとは思うが……」

「いや、待ちたまえ。ただでさえ現状が不安定かつ不確定要素で溢れているんだ。迂闊なことをして、もし二度と戻らなくなったらどうするんだ？」

マキアスの指摘に、ラウラは「確かに……」と眉根を寄せた。

何か手を打たなければならないのは分かっている。

しかし下手に何かして、もし万が一のことが起こった場合、どうすればいいのか。

糸口がまったく見えないこの現状に、リィンたちは皆やり切れぬ思いで顔を曇らせていた。

「あ、諦めちゃ駄目だよ！　入れ替わることが出来たんだもん！　絶対に元に戻る方法があるはずだよ！」

「会長……」

陰鬱な空気を吹き飛ばすかのように声を張り上げたトワの姿に力を貰い、リィンは一度瞳を閉じ、小さく頷いた。

「そうだ。さっきガイウスも言っていたとおり、俺たちなら絶対に乗り越えられる——いや、必ず乗り越えてみせる！　だからすまない、皆。難しい話だというのは重々承知しているが、俺たちに力を貸して欲しい」

真摯に頭を下げるリィンに、トワを含めた《Ⅶ組》のメンバー全員が当然だと言わんばかりの表情を浮かべていた。

「もちろんだよ！　だって仲間が困ってるんだもの」

「エリオットの言うとおりだ。オレに出来ることがあれば、なんでも言ってくれ」

「右に同じだ。俺の力が必要ならば、いつでも言うがいい」

「そうだな。こればかりは君に同意しよう。僕も力になる」

「ふふ、私もです。もちろんミリアムちゃんやクロウさんも同じだと思いますよ」

「だね！　クロウ君もああ見えて、困ってる人は放っておけない性格だし」

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

「皆……」

清々しいくらいの笑顔を向けてくれる皆の様子に、リィンたちは心の底からお礼を述べた。

「本当にすまない……」

「うむ。そなたたちに心よりの感謝を」

「私も。なんてお礼を言えばいいのか分からないけれど……でもありがとう。恩に着るわ」

と。

「……ん。サンクス」

『——っ!?』

突如聞こえたフィーの声に、リィンたちは揃って目を丸くした。

「フィー、寝ていたんじゃないのか？」

「……ん。でもさすがにこの状況では起きざるを得ないと判断」

「ふふ、そなたらしいな」

ほんわかとした雰囲気と、皆の優しい笑顔に包まれながら、リィンたちは今一度希望を取り戻す。

すると、

「——さすがはあたしの教え子たちね。泣かせるじゃないの」

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

タイミングを見計らったかのように教室の扉が開き、二〇代半ばと思しき一人の女性が姿を現した。

「さ、サラ教官!?」

トワが驚いたように声を上げれば、女性ことサラ・バレスタインは、何やら上機嫌で歩を進めた。

サラ・バレスタイン。

リィンたち《Ⅶ組》の担任教官で、武術及び実践技術を担当している女性だ。

ぱっと見は綺麗なお姉さんであるが、お調子者な性格の上、昼間からビールを飲んだりと、私生活はかなりだらしない。

なお、好みのタイプは〝渋めのおじさま〟である。

件のことから、色々と勘違いされがちだが、実は最年少で〝A級遊撃士〟となった過去を持ち、《紫電のバレスタイン》とまで呼ばれるほどの圧倒的な実力を持っている。

トールズ士官学院で教官になる前は、凄腕の遊撃士として、帝国内にある遊撃士協会（ブレイサー・ギルド）の支部に所属していたのだが、鉄血宰相ことギリアス・オズボーンの圧力によって、協会自体が縮小させられてしまったため、去らざるを得なくなってしまった。

が、後に学院長のヴァンダイクにスカウトされたことで再就職し、今に至っている。

サラは相変わらずの軽い足取りで教卓近くまで赴くと、教室内を見渡し、「聞いたわよ、皆。何やら大変な事態になってるみたいじゃないの」と言った後、リィンとアリサに向けてそれぞれ告げた。

「で、君がリィン・ラインフォルト君で、そちらがアリサ・シュヴァルツァーさんだったかしら？」

『……』

この状況で何を言ってるんだ、この人は……、という視線が四方八方からサラに突き刺さるが、彼女は気にする様子をおくびも見せず、話を続ける。

「あの、サラ教官？」

「何かしら？　アリサ・シュヴァルツァーさん」

「いえ、リィン・シュヴァルツァーです。見た目はアリサですけど……」

「もう、そんなの分かってるわよ。あたしが言いたいのは、アリサが嫁入りしたの？　ってことよ♪」

「よ、嫁入りなんてしてません！」

顔を紅潮させながら慌てて否定したのは、もちろんアリサである。

その反応を期待していたサラは、満足そうに「よしよし」と一人頷いていた。

「サラ、それだとわたしはラウラのお嫁さんになる」

「あら、それもありっちゃありよ？　世の中には〝乙女の嗜み〟というものがあるくらいだし」

「……？　サラ、爆薬とか煙幕を持ち歩くのが〝乙女の嗜み〟じゃないの？」

小首を傾げながら言うフィーに、今度はエマが慌て始めた。

「な、なんでもありませんよ？　フィーちゃん。そ、それよりサラ教官はどうしてこちらに？」

「決まってるじゃない。担任として、君たちのフォローに来たのよ」

「サラ教官……」

リィンたちがじんわりと感動を覚えていると、

『──まったくどこへ行ったのかね!?　バレスタイン教官は!?』

「あ、やばっ!?」

男性の怒鳴り声の後、即座に教卓の裏に身を潜めるサラ。

一瞬遅れて、教室内にノックの音が響く。

「は、はい！」

トワが返事をすれば、「──失礼する」と一言断りながら、壮年の男性が扉を開けた。

そこに立っていたのは、指紋一つない丸眼鏡とちょび髭が特徴的な、ここトールズ士官学院の教頭──ハインリッヒだった。

ハインリッヒはいつもの神経質そうな瞳でトワの姿を確認すると、少し驚いたような表情を

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

見せた。

「……む、君はトワ・ハーシェル君か。何故生徒会長の君がここに……と、まあそれはいい。それよりバレスタイン教官を見なかったかね？」

問われたトワは、一瞬びくっと反応したものの、努めて冷静に状況を判断し、ハインリッヒに告げた。

「い、いえ、こちらには来ていませんが……」

「ふむ、そうか。ではもし見かけた場合は、即座に私まで伝えるように。よいかね？」

「は、はい。分かりました」

「うむ。では失礼する」

どこか不遜げにそう言い残し、ハインリッヒは教室を去っていった。

彼の気配が消えたことを確認したサラは、大きく一息吐き、腰を上げる。

「……まったくしつこいったらありゃしないわ。ありがとう、トワ。おかげで助かったわ」

「いえ、それはいいんですけど……」

「今度は一体何をしたんですか？」

呆れ顔のマキアスにそう尋ねられたサラは、「失礼ね。それじゃあたしがいつも何かやってるみたいじゃない」と言い返すが、サラ以外の全員が「みたいというか、むしろやっているのでは……」と内心思っていた。

「ふん、大方酒でも飲んでいたところを見つかったのだろう」

「ち、違うわよ！　さすがのあたしでも学院内では飲まないよう必死に我慢してるんだから！」

「まあそれは当然だと思うが……。では何故ハインリッヒ教頭に？」

　ラウラの問いに、サラは腕を組み、神妙な面持ちで口を開いた。

「話せば長くなるわ……」

「あの、出来れば短めでお願い出来ると……」とエマ。

「何よぅ。せっかくお姉さんが聞くも涙の冒険譚を語ってあげようと思ったのに……」

　子供っぽく頬を膨らませるサラだったが、切り替えは早いらしかった。

「まあそれは冗談として。実はとある生徒の親御さんから、いつもお世話になっているお礼にって、お酒を箱いっぱいもらっちゃってね。しぶしぶ他の教官方にもお裾分けをしようと運んでいたら、運悪く教頭に見つかっちゃったってわけ」

「なるほど。でもそれなら、きちんと事情を説明すれば、分かってもらえる気がするんですけど……」

「そこがあの教頭の面倒臭いところなのよね～。もちろんあたしだってアリサの言うとおり、事情を説明したわよ。それはもう事細かくね。けれど、何故かあたしの私物だと言い張るのよ、あのちょび髭」

『……』

　不満を熟々と垂れ流すサラに、普段の素行を知っている一同は、自業自得なのではなかろうかと思っていたが、それは心の中に留めておくことにした。

「つまり逃げてきたんですね？」

「まあそういうこと♪　でもフォローしに来たのも本当よ？」

　サラはリィンの言葉に頷き、「さすがに元には戻せないけど」と前振りをした後、口の端を歪めて言った。

「あたしはね、どんな些細なことでも、意味のないことなんか一つもないと思ってるの。無責任な発言だと君たちは思うかもしれない。でもね、今は辛いかもしれないけど、それでもこうなったことには、きっと何かしらの〝意味〟があるはずよ。他人になれるなんて、通常では考えられない体験だしね」

『……』

　聞き入る一同に、サラは「だから」と最後にこう言った。

「――きっと元に戻れるわ。もちろん確証なんてないわよ？　でもあたしはそう信じてる」

『――っ』

　サラの言葉がリィンたちの胸に熱いものを込み上げさせる。

　普段は頼りない残念美人の彼女ではあるが、ここぞという時は誰よりも頼りになる――それが〝サラ・バレスタイン〟という女性なのだ。

が。

「じゃ、そういうことであたしは隠しておいたお酒を回収してくるから。もうこうなった以上、本当に残念だけど、あたし一人で飲むしかないわね。ふふ〜ん♪」

『……』

鼻歌交じりに教室を後にするサラを見送りながら、リィンたちは今の感動は一体なんだったのかと揃って嘆息するのであった。

そうしてその後も精力的に話し合いは続けられたが、やはり現状では闇雲に手を出すわけにはいかないという結論に達し、シャロンの報告を待ちつつ、しばらくは様子を見ようということになった。

とはいえ、四六時中監視するわけにもいかず、かと言って、一人で行動し、万が一のことがあってはいけないと、入れ替わった両者はなるべく一緒に行動するという運びになり、リィンとアリサ、ラウラとフィーが、それぞれともに行動していた。

しかも《Ⅶ組》以外の生徒に知られるわけにもいかず、目立つ行為は避けるよう細心の注意を払いながらの行動ゆえ、逆にどこか辿々しい感じだった。

「しかし何と言うか、スカートというのはどうにも落ち着かないな……」

いつもより風通しのよくなった足元に、リィンは微妙な表情を浮かべる。

英雄伝説 閃の軌跡
〜メンタルクロスリンク〜

「まあ仕方ないわよ。私だってズボンなんて滅多に穿かないし。でもサラ教官の言ったとおり、なんだか新鮮な感じでもあるわ」

「そうだな。早く元に戻るに越したことはないが、これも一つの経験として、きちんと受け入れることも大切なのかもしれない」

そんなことを話しながら、リィンたちは廊下を並んで歩く。

他の《Ⅶ組》メンバーも、それぞれ元に戻れる方法を探してくれている以上、自分たちだけが寮で待っているわけにもいかない。

そう考えたリィンたちは、何か方法がないものかと思案しつつ、ふとしたことからアイディアが見つかる場合も踏まえて、学内を散策していたのだ。

もちろん人前ではお互いに口調を変え、なるべく怪しまれないよう努めている。

と。

「――急げ！ 急ぐのだ、サリファ！」

何やら慌ただしい様子で廊下を駆けてくる貴族生徒がいた。

傍らには涼しい顔で追走するメイド服姿の女性もいる。

「あれは……確か二年のヴィンセント先輩と、メイドのサリファさんだったか」

「ええ、フェリスのお兄さんだったたわね。時々ラクロスの練習を見に来ていたような気がするわ――って、ああっ!?」

突如声を張り上げたアリサに、リィンは「どうしたんだ?」と首を傾げる。

ちなみにアリサの言う〝フェリス〟とは、彼女と同じラクロス部に所属する貴族生徒で、良きライバル関係にある少女である。

「い、いえ、ちょっと思い出したことがあって……」

しかしアリサは苦虫を噛み潰したような顔で口ごもらせていた。

何か言いづらいことでもあるのだろうか。

それならば無理に聞き出すのも失礼だろう。

リィンがそう思っていると、二人の姿に気づいたヴィンセントが足を止め、演技がかった口調で語りかけてきた。

「やあ、二人とも。本当はこの歓談の貴公子ことヴィンセント・フロラルドが、得意の話術を披露したいところではあるのだが――」

「ヴィンセントさま。〝あの方〟の気配が凄まじい速さで近づいてきておりますが?」

「ひいっ!? そ、それはいかん! で、ではさらばだ!」

言って、ヴィンセントとサリファは再び廊下を駆けていった。

「……な、なんだったのかしら?」

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

「さあ……。だが何かに追われているような感じだったな」

「ええ、そうね。〝あの方〟とか言っていたけれど……あら?」

ヴィンセントたちが廊下の角を曲がったと同じタイミングで、今度は彼らを追うように、一人の女生徒が猪が如く姿を現した。

「あらぁん? リィン君じゃなぁい」

「――っ!?」

その逞しい足で速度を殺し、野太めの声音で口を開いたのは、貴族向けの制服が体型的な意味で悲鳴を上げている女生徒――マルガリータだった。

彼女はミリアムと同じく調理部に所属しており、以前ヴィンセントが偽名でラブレターをもらうということがあった際、リィンは彼からの依頼でラブレターの送り主を捜したことがあり、言わずもがな、このマルガリータがその送り主だったのだ。

なお、その時に使われた〝グランローゼ〟という偽名は、かつて彼女の実家であるドレスデン男爵家から、皇帝家に嫁いだ絶世の美女の名前だったという。

危うく返事をしそうになってしまったリィンだったが、すんでのところでアリサに止められ、事なきを得る。

「や、やあ、マルガリータ。そんなに急いでどうしたんだ?」

「ムフフン、決まってるじゃなぁい。愛しのヴィンセントさまに手作りのクッキーをお届けす

るところなのよぉん♪」
鼻息荒くそんなことを言う。
ヴィンセントが慌てていた理由はこれか……、とリィンたちは揃って納得した。
先ほどミリアムが帝都のレクターにクッキーを届けに行っていたが、やはりマルガリータも一緒にクッキーを作っていたのだろう。
たとえ相手が誰であれ、せっかくの手作りなわけだし、受け取ってもいいとは思うが……。
ちらっ、とリィンはマルガリータの手に握られた、リボン付きの小包を見やる。
ぱっと見は、とても可愛らしい包装がされた小包である。
恐らくは五個程度のクッキーが包まれているのであろう。
しかし――。
「……」
この言い知れぬ威圧感は一体なんなのか。
何故たかがクッキーにこれほどの〝圧〟を感じるのか。
心なしかあの小包の周囲だけ空間が歪んでいるようにも見える。
――危険だ。
何が危険なのかはよく分からないが、とにかくあれを食すのはあまりにも危険ということだけは分かる。

本能がそう警告しているのだ。
それはアリサも同じだったようで、彼女の顔色も青白くなっていた。
「と、とにかく廊下を走るのは危ないから……えっと……き、気をつけてくれ」
「ムフフ、ありがとぉん♪ そうよねぇ、ヴィンセントさまのものになる前に、この身を傷つけるわけにはいかないものねぇん♪」
「そ、そうだな……」
アリサも若干引いている様子である。
「そうなのぉおおおん！ この身を傷つけていいのは、愛しのヴィンセントさまだけなのよぉおおおおん！」
己が身体を両腕で抱き（クッキーの砕ける音がした）ながら、マルガリータは直前の忠告を忘れて再び大地を蹴った。
「ヴィンセントさまぁあああああん！ 今行きますわぁあああああああん！」
「「……」」
そしてリィンたちは、その光景をただ眺めていることしか出来なかった。
せめてヴィンセントが無事であるよう、微かな祈りを込めながら。
リィンたちがマルガリータと遭遇していた頃、彼らと同じく、ラウラたちもまた学院内を散

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

策していた。

　とはいえ、向こうほど切羽詰まった感じではなく、二人ともどこか余裕を持っており、フィーにいたっては、中庭のベンチで再び昼寝をしているくらいだった。

　ただ普段と違うのは、そこに幾人もの女生徒たちが集まっているということだろうか。

　皆一様に黄色い声を上げ、顔を紅潮させている者たちがほとんどだった。

　何故なら、

「……はぁ。なんとお美しいお姿なのかしら……」

「ええ……。よもやあのラウラさまが、まさかこのようなところでお休みになられているなんて……」

　そう、他の者たちにはラウラにしか見えないからである。

　ラウラはその怜悧な容貌と、凛然とした佇まいから、男子よりもむしろ女子の支持を集めてしまっており、故郷であるレグラムや、帝都の聖アストライア女学院などには、彼女を〝お姉さま〟と慕う女子たちが多数存在している。

　いつも凛々しいラウラの貴重な寝姿が拝見出来ると聞けば、学院中から女生徒たちが集まってしまうのも当然の道理であろう。

　そんな最中に事件は起きる。

「――ですがまだ暖かいとはいえ、さすがに何もかけずにというのは、ラウラさまのお身体にも毒なのでは……？」

『――っ⁉』

　この一言が女生徒たちの間に緊張感を走らせたのだ。

「そ、そうですわね。ではここは私がラウラさまを温めて……くっ⁉」

　ぎゅっと手首を掴まれた女生徒は、掴んだ女生徒を睥睨する。

「あらあら、抜け駆けはよろしくないのではなくて……っ⁉」

　掴む手と振りほどこうとする手がぎりぎりと摩擦を起こす。

　彼女らだけではなく、他の女生徒たちも互いを牽制するように目配せしていた。

「でしたらこの私が……」と貴族の生徒が前に出れば、

「いえいえ、ここは私の方が……」と同じく貴族の生徒がさらに前に出て、

「いえ、私が……」と隙を突いてやはり貴族の生徒がラウラ（フィー）に手を伸ばせば、

「うふふ……」と平民の生徒が身体を滑り込ませる。

『……』

　沈黙。

『おほほほほほっ！』

身分を問わず、殺気立った笑顔を向け合う女生徒たちを尻目に、フィーは瞳を閉じながら思っていた。

……寝れない、と。

一方、当の本人であるラウラは、何やら激しい攻防を繰り広げている女生徒たちの様子を遠目に首を傾げつつ、園芸部の部長であるエーデルに視線を戻した。

エーデルはいつも麦わら帽子を被りながら花の面倒を見ている、柔らかい面持ちの女生徒である。

貴族クラス用の白い制服に身を包んではいるが、服の上からでも分かるほどスタイルがよく、物腰からも母性を感じさせていた。

「これがフィーの育てた花か」

「あら？　フィーちゃん、なんだかしゃべり方が変わりましたか？」

花壇を眺めながら自然と出てしまった言葉に、ラウラはしまったと臍を噛む。

「い、いや、そ、そんなことはない。私はいつもどおりのフィー・クラウゼルだ」

「ふふ、なんだかラウラさんみたいですよ。よほど仲がよろしいんですね」

おかしそうに微笑むエーデルに、ラウラは血の気が引いた思いだった。

（な、何故バレたのだ⁉　い、いや、落ち着け！　落ち着くのだ、ラウラ・S・アルゼイド！　この程度で心を乱してどうする？　落ち着いてフィーを演じきるのだ！）

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

小さく呼吸を整え、ラウラは普段の自分と接しているフィーの記憶を呼び起こす。

「……ぶい」

Vサインである。

（――って、何が〝ぶい〟なのだ⁉　い、いや、確かによく〝ぶい〟とやってはくれるが、今この状況でやることなのだろうか……？　わ、分からぬ……）

内心頭を抱えるラウラだが、エーデルは「はい」とやはり微笑み、

「ぶいです♪」

同じくVサインを作ってくれた。

「お、おお……っ」

それに感動を覚えたラウラは、自分のしたことは間違っていなかったと拳を握り、その後も自分の描くフィー像に従って、なんとかフィーを演じきるのであった。

マルガリータの登場に調子を乱されたリィンたちだったが、今は落ち着きを取り戻し、校舎を出て、学院の敷地内を旧校舎方面へと歩いていた。

「しかしなかなかいいアイディアが浮かばないものだな」

「そ、そうね……」

「皆の方はどうだろうか？　何か見つかってくれればいいんだが……」

「ど、どうかしらね……」

「……」

「……」

　学生会館の前を通過した辺りで、先ほどからどこか焦燥を隠せない様子のアリサに、リィンは足を止め、思いきって尋ねてみることにした。

「なあ、アリサ」

「な、何かしら？」

「その……何か気になることでもあるのか？」

「えっ⁉　べ、別に何もないわよ？」

　あからさまに動揺するアリサに、リィンも苦笑いを浮かべる。

「いや、たぶん何か事情があるとは思うんだが……。よかったら話してくれないか？　もしかしたら力になれるかもしれないし」

「……」

　リィンにそう促されたアリサは、困ったように視線を泳がせた後、ついに観念したのか、自分を納得させるように小さく頷き、「あ、あのね……」と語り始めた。

「その、こんなことをしている場合じゃないのは分かっているの。でも以前から約束していたことだから……」

「つまり〝アリサ〟として、俺に何かして欲しいことがあるんだな？」

「……ええ」

　申し訳なさそうに首肯するアリサに、リィンは口元を緩める。

「気にすることはないさ。確かに大変な状況ではあるけど、これも意味のあることだってサラ教官も言ってただろ？　実際俺もサラ教官の言葉を聞いて、そう思えるようになった。だからこの状況で俺に出来ることがあるなら、是非任せて欲しい」

「リィン……」

　まなじりに薄らと涙を浮かべるアリサに、リィンは力強く頷いた。

「……ありがとう。じゃあ悪いけどお願いするわ」

「ああ、任せてくれ。それで何をすればいいんだ？」

「ええ、実はさっきフェリスのお兄さんを見かけた時に思い出したのだけれど……」

「そういえば、何か驚いていた様子だったな」

「ええ。実はフェリスと日頃の成果を競うために、ラクロスの練習試合をする約束をしていたの」

「なるほど。つまりそれに出ればいいんだな？」

「そういうことになるわ。ただ私自身じゃないのが、フェリスには申し訳ない限りなのだけれど……」

　しゅん、と下を向いてしまったアリサの頭を、リィンは少しだけ背伸びしながら、優しく撫

でる。

「あっ……」

「仕方ないさ。だがその代わりと言ってはなんだが、俺も全力で相手をさせてもらうよ」

「リィン……。ありがとう……」

「ああ」

微笑むリィンに、アリサも笑顔を取り戻す。

「とりあえずルールについては、後で教えてもらっていいか？」

「ええ。それについては任せて頂戴」

「ああ、頼む。じゃあ早速着替えてくるから、ちょっと待っていてくれ」

「ええ、分かったわ——って、ちょっと待って⁉」

「……うん？」

寮に戻ろうとしたリィンは、どうしたのかと眉根を寄せた。

「なんだ？」

「なんだじゃないわよ⁉　あなた、まさか着替えるつもりじゃないでしょうね⁉」

「ああ、そのつもりだが……」

しれっとさも当然だと言うリィンに、アリサは驚愕の表情を浮かべた。

「ど、どどどういうつもりよ⁉」

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

「いや、どういうつもりも何もユニフォームに着替えるんだが……。いつもユニフォームで練習してただろ？」

「そ、そうじゃなくて！　私が言いたいのは、あなたが〝私の身体で着替えるのか〟ってことよ⁉」

「えっ……あっ！」

そこまで言ってやっと気づいたらしく、リィンは慌てて弁解した。

「ち、違うんだ。俺はただ純粋に着替えようとだな……」

「や、やっぱりあなた……」

己が身体を抱きながらジト目を向けてくるアリサに、リィンはどう説明したらよいものかと頭を抱えつつ、同時に女の子っぽく恥じらう自分の姿が、思った以上に気持ち悪いことにもショックを受けていた。

「……分かった。じゃあ着替えに関しては、俺は目を隠しておくから、アリサがやってくれ。それなら問題ないだろ？」

「えっ……。で、でもそれって、つまり〝リィンには見られる〟ってことよね？」

「いや、まあ身体だけで言うならそうかもしれないが、でも俺の意識はこっちにあるからな」

「で、でも見られることに変わりはないでしょ⁉　そ、それは駄目！　絶対駄目！」

気持ちは分からなくないが、断固として拒否するアリサに、リィンも「参ったな……」と頭

を掻いていた。
と。
「――話は聞かせてもらったぜ！」
どこからともなく軽快な声が飛び込んできた。
「えっ？」
二人が振り向いてみると、そこには不敵な笑みを浮かべながら腕を組んで佇む、一人の男子生徒の姿があった。
額に巻いたバンダナと、だらしなく着崩した平民用の制服が特徴的な学院生――クロウ・アームブラスト。
帝都ヘイムダルに競馬の雑誌懸賞を当てるために向かったはずの、《Ⅶ組》メンバーの一人だった。
「クロウ⁉」
驚くリィンに、クロウは「よっ」と手を上げながら近づいてきた。
「帝都に行ったんじゃなかったのか？」
「もちろん行ったさ。まあ結果は聞いてくれるな……」

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

がっくりと消沈するクロウに、リィンたちは全てを悟る。
以前も大負けしていたのだが、どうやら今回も同様の結果に見舞われたようだった。
「しっかし本当に入れ替わっちまったんだな。トワから話は聞いていたが、こうして実際に会ってみると、嫌でも信じざるを得ないぜ」
観察するように二人を見比べ、クロウはやれやれと嘆息する。
「まあそいつはいいか。とにかく今はアリサの試合についてだろ？」
「え、ええ、そうなの。その、着替えをどうするかで悩んでいて……」
「ああ、知ってる。あれだけ大声で叫んでりゃな」
「～～っ⁉」
言われてアリサの顔がみるみる赤くなっていく。
してやったりといった表情のクロウは、リィンたちに「だから言っただろ？〝話は聞かせてもらった〟ってな」と得意げに告げた。
「クロウ、もしかして何か解決策があるのか？」
「もちろんだぜ。俺様を誰だと思ってやがる？」
ぐっと自分を指差すクロウに、一応先輩であることを忘れていたリィンたちは、改めてそれを思い出す。
先ほどトワも言っていたが、なんだかんだ言いつつも、クロウは面倒見の良い性格であり、



ここぞという時には頼りになる、兄貴分的な存在なのだ。

そんなクロウには、リィンたちも幾度となく助けられているので、どんな解決策が出てくるかと、固唾を飲んで見守っていると、クロウは腰に手をあて、声高らかに言い放った。

「リィンが一人でやるのは駄目、アリサが手伝うのも駄目となりゃ方法はもうこれしかねえだろ？

——そう、この俺が着替えさせればいいってワケだっ！」

「……」

重い沈黙とともに風が吹き抜ける。

自信満々に言い切ったクロウが再びリィンたちに視線を戻すと、

「——」

「うおっ⁉」

眼光だけで魔獣を射殺せるのではというアリサの威圧感に、堪らずクロウは身を竦ませた。

「リィン、行きましょう」

「あ、ああ……」

笑顔だが目の笑っていないアリサにそう促されたリィンは、ただ頷くことしか出来なかった。

「じゃ、じゃあクロウ……また後で」

「お、おう……」

　そしてクロウも、寮へと向かう二人の背姿を見送ることしか出来ず、徐々に小さくなっていく背に向けて、こう独りごちるのだった。

「はは、ちょっと冗談が過ぎちまったかな……。まあ後はリィンのやつに任せるとするか……」

　クロウと別れたリィンたちは、寮への道を急いでいた。

「まったく、クロウったら……ぶつぶつ……」

　当然、アリサの口からは止めどなく悪態が流れ続けていた。

「まあクロウもそんなに悪気があったわけじゃ……」とクロウを擁護するリィンだったが――じろりっ。

「い、いや、なんでもない……」

　アリサに半眼を向けられ、大人しく口を噤んだ。

　寮の扉を開けたアリサは、シャロンが戻ってきていることを期待していたのだが、寮内に彼女の姿はなく、仕方ないとそのまま自身の部屋へ向かう。

　壁に掛けておいたラクロスのユニフォームをベッドの上に置き、アリサはリィンの顔に布で目隠しをした。

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

「こうなったらもう仕方がないわ。試合まで時間もないし、お互いに目隠しをした状態で着替えましょう」

「あ、ああ。アリサがそれでいいなら俺は構わないが」

「ええ。じゃあ私も目隠しするから、あなたは私の指示どおりにして頂戴」

「分かった」

　アリサが目隠しする音を耳朶で受けつつ、リィンは立ったままで、アリサの指示を待っていた。

「それじゃまずは上からね。私が上を脱がせるから、リィンは流れに身を任せて」

「ああ」

「えっと、まずはボタンを外して……」

　――ふにゅ。

「あら？　これは何かしら？」

　むにゅむにゅ。

「えっと……アリサ？」

「何？　今忙しいのだけれど？」

「いや、非常に言いにくいんだが……そこは〝胸元〟だ」

「えっ？　え、ええっ⁉　な、なんてものを触らせてくれたのよ⁉」

「い、いや、俺はただアリサの指示どおりにしていただけなんだが……」

「と、とにかく！　そういうことはもっと早く言って頂戴！」

「あ、ああ……」

　アリサに念押しされ、リィンもしぶしぶ頷く。

　それからなんとかボタンを外すことに成功したアリサは、リィンの協力を得て上着を脱ぐことにも成功する。

　次いで肌着を脱ぐことになったのだが、これは上からかぶるものゆえ、アリサが持ち上げ、リィンが両腕を上げる――いわゆる万歳ポーズになる必要があった。

「よし、いいぞ」

「分かったわ」

　リィンが両腕を上げたことを伝えると、アリサは肌着の下からゆっくりとそれを持ち上げ始める。

「お、いい調子だ」

「そ、そう？　じゃあこのまま上まで引っ張ってっと」

　――ふぁさっ。

「よし、脱げた――って、うん？」

　心なしか顔が涼しくなった感触を覚えたリィンは、自らの顔に手を当てる。

「どうしたの？」

「あ、いや……」

　きめ細かな肌の質感が指全体に広がり、しかし何かが足りないことに気づく。

　恐る恐る瞳を開けると、そこには目隠ししたままこちらを見ている自分の姿があった。

「あっ……」

　そう、自分の姿が〝見えている〟のである。

　恐らくは先ほど肌着を脱いだ時、目隠しも一緒に取れてしまったのだろう。

　慌てて目隠しを探そうとするリィンだったが、下を向いた際、視界の中に入ってくる二つの丘に気づいてしまった。

　その白桃のような丘は、肌着とはまた違った色彩の桃色に包まれ、存在感をこれでもかとアピールしていた。

「あ、こ、これはその……」

　誰に言うわけでもなく、自然と弁明の言葉が出てしまったリィンに、いよいよ何かがおかしいと感じたアリサは、「ま、まさか!?」と目隠しを剥ぎ取った。

「～～っ!?」

「ち、ちち違うんだ!?　こ、これは誤解なんだ!?　さっき肌着を脱いだ時に――」

　そこまで説明した時、室内には清々しいほど乾いた音がスパンッと鳴り響いた。

余談だが、後日この時の話を《Ⅶ組》の女子たちにした際、「それならば、私やフィー、エマ、もしくはトワ会長に声をかければよかったのではないか？」とラウラに言われ、アリサは真の意味で真っ白に燃え尽きたとかなんとか。

第2話『訪れた非日常』終わり

FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！

今月のプレゼントはこちら!!

① 各1名様

❶『英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ』
ヒロインの絆サイン色紙
『閃』の華麗なるヒロイン、アリサ＆ラウラ、フィー＆エマの豪華キャスト陣が集結！





② 1名様

❷アニメ『みんな集まれ！ファルコム学園』
新久保だいすけ先生サイン入り台本セット
アニメSCも大好評御礼！　第１期の台本全３冊をなんと新久保だいすけ先生のサイン入りで大放出!!

プレゼントの応募方法

こちらのアンケートの回答を下記のアドレスまでメールにてお送りください。
プレゼントの当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

宛先：
件名：vol.50　プレゼント係

1：お名前（ペンネーム可）
2：面白い→
　つまらない→
　（記事一覧から1つずつ）
3：①
　②
　（はい・いいえ／作品名）
4：希望するプレゼント番号
5：ご意見・ご感想など

【記事一覧】

1：東京ザナドゥ 最新情報
2：空の軌跡 FC Evolution 最新情報
3：みんな集まれ！ファルコム学園
4：漫画 英雄伝説 閃の軌跡
5：小説 英雄伝説 閃の軌跡
6：イラストコラム「ファルコムヒロインが好き！」
7：jdkバンド ドラマー・オカジの人生半キャラずらし
8：jdkバンド ボーカル・小寺可南子のコテ放題
9：ティオのファルコムラジオめんどくさいです…
　でもがんばりますの舞台裏
10：ファルコムニュース

アンケート

①好きな
ソーシャルゲームは
何ですか？

②『みんな集まれ！
ファルコム学園』で
好きなキャラは
誰ですか？

特設サイトからも応募ができます！
http://www.field-y.co.jp/root/index.php/falmagap

宛先はこちら➡ falmaga@field-y.co.jp　応募締め切り　4月27日

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、賞品の発送のためのみに利用し、その他の目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後３ヶ月を越えて保有することはありません。

ゲームでは描かれなかった特務支援課の
公式設定をもとに描かれたエピソード集！



英雄伝説 碧の軌跡 ショートストーリーズ

『軌跡』シリーズの第2弾『零／碧の軌跡』で主人公を務めたロイド、エリィ、ティオ、ランディら特務支援課メンバーの、ゲーム中では描かれることの無かったエピソードを一冊にまとめた外伝小説。ロイド、エリィの子ども時代の話や、ティオ、ランディがパーティーメンバーが離れていた間の出来事を垣間見ることができる!

2015年4月10日発売!
1,200円+税
判型：B6正寸　並製ページ数:208
ISBN：978-4-89610-849-1
発行元:フィールドワイ　発売元:メディアパル



月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.50

発行人	田中一寿
発行協力	日本ファルコム株式会社
編集	小渕智幸 大場恵美子
デザイン・DTP	さとうだいち／石橋青大
表紙ロゴデザイン	荻窪裕司（ビーニーズ）
発行	株式会社フィールドワイ 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F TEL 03-5282-2211（代表） http://www.field-y.co.jp/
制作・販売協力	シナノ印刷株式会社